

わが大学の理想と京都芸術劇場

二〇〇七年、わが大学が出版してから30周年を迎えました。

二十歳のときに京都・瓜生山と出会い、この地に昭和の松下村塾たるべき大学を創ろうと決意し、57年の歳月が立ちました。

日本、さらには世界の動向を見ずえ、いかなる大学を創るべきか。当時、その答えを求め、現存する世界中の大学を訪ねましたが、さらなる大学の起源を求めて、プラトンが創設し古代世界最大の名声を誇ったアカデメイアのあったアテネを訪れた際に、ペロポネソス半島東部にあるエピダウロスの丘へと足を延しました。そこには、美しい山々の風景を背に、古代ギリシャの円形劇場がほぼ完全にかたちを留めていました。その壮大な劇場を散策し、演劇を通して永遠なるものと対峙しつつ思想・哲学を極めていった古代ギリシャの哲人たちの姿を思い、以来、これから創る大学には、必ず劇場をつくろうと思ひ定めてきました。



大学入口の大柱に刻まれた6つの言葉

数十年を経て、二〇〇一年京都芸術劇場「春秋座」開設の直接のきっかけは、市川猿之助との出会いでした。氏の演劇にかける情熱と、この大学が求める理想とがぶつかり合って火花を散らし、その散った火花が、年月を経て「春秋座」へと姿を変えていったのです。

演劇とは、ひとたび観衆の前に立てば、一回限りの真剣勝負です。演者は、真剣勝負に耐えられる心と技を磨くために、鍛錬に次ぐ鍛錬を重ね、乗り越えた者だけが、人々に本当の感動を伝えることができます。

芸術の真髄である「感動する心」を、これからの日本を背負う若者たちに知ってもらいたい。「感動する心」こそ、人を大きく育て、暗い世の中を明るく変えていくに違いない。この劇場には、大学の理想につながる強い願いが込められているのです。

京都造形芸術大学 理事長 徳山詳直

京都造形芸術大学映画祭

歌舞伎の劇場で観る映画祭

林海象 映画学科学科長

07年に新設された京都造形芸術大学「映画学科」。その主旨のひとつに「浴びるほど映画を観る」があります。本学には「春秋座」という見事な歌舞伎劇場があり、どうせ浴びるほど映画を観るなら、最も豪華な環境で学内外の人々に映画を観てもらおうと「京都造形芸術大学映画祭」を企画しました。歌舞伎劇場で映画が上映されるのは日本初だと思えます。歌舞伎と映画、その二つは「観客を魅了する芸術」というところで深く繋がっています。娯楽の王道でもある「歌舞伎と映画」、その両方の雰囲気をお楽しみください。大画面で観る映画の数々とともに、その映画にまつわる監督や映画スターたちをお招きして、京都の瓜生山に「娯楽芸術」という大きな華を咲かせたいと、私たち「映画学科」は考えています。本映画祭は本学が広く一般に公開する学内カリキュラムの目玉でもあります。学生はもとより学外の映画を愛する方々のご参加を切に願っております。



映画祭ディレクター：林海象

Schedule Pickup
スケジュール・ピックアップ

料金：通し券五千元(全6回+映像ホールでの特別企画上映1回) / 1回券 一般千五百円、学生・シニア千円
会場：京都芸術劇場 春秋座

10月27日のみ映像ホール(入間館NB棟B1階)
主催：問い合わせ：京都造形芸術大学 映画学科
TEL 075-791-9353

上映スケジュール

- 各回12時半開演 / 13時スタート(上映+トーク+上映)
- 8月4日(土) 高橋伴明映画祭(映画と喧嘩する監督と女優)
上映作品：「TATTOO(刺青)あり」(107分)、「光の雨」(130分)ゲスト：高橋伴明(映画監督)、高橋恵子(映画女優)
- 9月30日(日) 郭在容映画祭(韓国映画の未来と展望)
上映作品：「猟奇的な彼女」(122分)、「ラフストーリー」(129分) ゲスト：郭在容(映画監督)、林海象(映画監督)、寺脇研(映画評論家)
- 10月27日(土) 伊藤高志映画祭(映画の魔術 幽霊たちのエネルギー)
上映作品：「SPACY」(10分)、「THUNDER」(5分) 他全10作品(100分) ゲスト：伊藤高志(映像作家)、八角聡仁(映画・演劇批評家)
- 10月28日(日) 木村威夫映画祭(美術監督作品200本を越えて)
上映作品：「海と毒薬」(123分)、「ツイゴイネルワイゼン」(144分) ゲスト：木村威夫(美術監督)、林海象(映画監督)
- 11月23日(金) 祝 林海象映画祭(映画を探偵する監督と俳優)
上映作品：「我が人生最悪の時」(92分)、「通かな 時代の階段を」(101分)、「買HEATER」(106分) ゲスト：佐野史郎(俳優) ※予定、林海象(映画監督)
- 12月16日(日) 佐藤真映画祭(ドキュメンタリーの境界)
上映作品：「エドワード・サイード OUT OF PLACE」(137分)、「ガーターパレスチナの詩」(106分) ゲスト：佐藤真(映画監督)、古居みずえ(映画監督)、北小路隆志(映画評論家)
- 1月20日(日) 宍戸錠映画祭(エースの錠目黄金時代を語る)
上映作品：「殺しの烙印」(91分)、「拳銃は俺のパートナー」(84分) ゲスト：宍戸錠(映画スター)、林海象(映画監督)

注：内容は出演者のスケジュール等によって一部変更する可能性があります。

第6回京都造形芸術大学和太鼓研究センター
登録者チーム発表会・和太鼓教室修了発表会

『響きeyeコンサート』

日時：07年7月28日(土) 開場13時30分 開演14時

会場：京都芸術劇場 春秋座

入場料：800円(前売・当日とも)

チケット取り扱い・お問合せ：和太鼓研究センター

TEL 075-791-9145 (受付平日10時～18時)



第5回『響きeyeコンサート』より
2006年7月15日
京都芸術劇場 春秋座

京都造形芸術大学和太鼓研究センターで開講している、和太鼓教室の受講生および本センターの会員登録チームによるコンサートを開催します。今回は、2歳から77歳までの総勢約160名、10チームが出演します。また今年より新たに開講した「チャレンジ教室」では、自閉症の方とダウン症の方と一緒に和太鼓の練習をしてきました。みんな楽しくコンサートに向けてがんばっています。各チームそれぞれの持ち味を生かした和太鼓の音色を、どうぞお楽しみください。

京都造形芸術大学 舞台芸術研究センター主催

『魂戯れ』の記憶の記録」タイムコラージュ

開催期間：07年9月20日(木)～28日(金) 11時～18時

会場：京都芸術劇場 春秋座 ホワイエ 入場無料

お問い合わせ・お申込み：京都芸術劇場チケットセンター

TEL:075-791-8240

e-mail:ticket@kuad.kyoto-u.ac.jp

舞台芸術研究センターでは、「記録と記憶」をキーワードに、京都芸術劇場で行われる主催公演の映像記録製作を通じて、舞台作品の記録の可能性を探ってきました。これは、一回性の特徴とする舞台芸術が、絵画、写真、ビデオなどの記録媒体を通じて再現されることの意味を考察し、その上であらためて、一回限りの観劇体験とその舞台の記憶にもっとも適した記録方法を模索する試みです。

映像製作チーム rem-sketch による『魂戯れ』の記憶の記録」タイムコラージュは、時間軸に沿って再現が行われる一般的な映像記録と異なり、5台のビデオカメラで収録された『魂戯れ』(大駱駝艦、03年、春秋座)の舞台映像を一度解体して、絵巻物の「異時同景図」のように、各場面を一つの画像のなかに空間的に再構成した映像記録作品となっています。春秋座のホワイエに設置された高さ約6mの特殊スクリーンに乱舞する白塗りの舞踏ダンサーたちの地獄絵(映像)は圧巻です。舞台芸術の記録をめぐる新たな可能性を探求した映像インスタレーションをどうぞお楽しみください。



rem-sketch 『魂戯れ』の記憶の記録」タイムコラージュより

*9月20日(木)18時30分より展示会場にてオープニングトークあり
出演：廣赤兒(天駱駝艦)、木村隆志(rem-sketch)、八角聡仁(批評家)、森山直人(演劇評論家) 入場：無料 定員：50名(先着順)

京都造形芸術大学主催 京都芸術劇場 毛利臣男芸術監督プログラム

モーリ・マスク・ダンス Part 13 去來II

日程：07年10月20日(土) 開場15時30分 開演16時

会場：京都芸術劇場 春秋座 料金：500円(前売・当日共)

お問い合わせ先：劇場企画運営室 075-791-9207 (大嶋・上田)

戯曲・構成・演出・美術・衣裳：毛利臣男(京都芸術劇場 芸術監督)
出演：栗崎昇(花飾)・藤間信之輔(日本舞踊 紫派 藤間流)・須貝哲也(ALOC・DD・C)
音楽・出演：越智義明・越智義久(越智ブラザース)
仮面・舞台空間デザイン指導：大野木啓人(京都造形芸術大学芸術学部 部長)
衣裳製作指導：中山和子(空間演出デザイン学科 教授)
出演・制作：空間演出デザイン学科 3年生・モーリ・マスク・ダンスプロジェクト
お問い合わせ先：劇場企画運営室 075-791-9207 (大嶋・上田)

モーリ・マスク・ダンスは毛利臣男芸術監督が提唱する「コラボレーション美学」をフィロソフィーとし、戯曲・構成・演出・美術・衣裳の全てを務める、仮面無言劇です。「モーリ・マスク・ダンス」は88年より始まり、本学では00年より過去7回、瓜生山野外能楽堂、studio21(京都造形芸術大学内)で行われ、全体で13回目を迎えます。そして今回、満を持して京都芸術劇場 春秋座での上演となります。

本学学生と第一線で活躍するプロフェッショナルとのコラボレーションによって創作される「モーリ・マスク・ダンス Part 13 去來II」。宇宙・生命の運行、四季の素晴らしさを舞で表現しながら、独創的なマスク、衣裳で空間を創造していきます。言葉を介さずに展開する劇でありながら、言葉を超えた様々な感情を呼び起こす「モーリ・マスク・ダンス」。今年もまた、色、彩、やかな空間があなたを魅了していきます。

(劇場企画運営室 大嶋英司)



「モーリ・マスク・ダンス Part11 極彩色」より
2006年10月21日 京都芸術劇場 studio21 撮影：出口綾

京都造形芸術大学 舞台芸術研究センター主催

ダンス・プロジェクト「恋する虜」関連シンポジウム
問いとしての「パレスチナ」

— ジャン・ジュネ『恋する虜』から

日時：10月8日(月・祝) 15時30分(19時終了予定)
会場：京都芸術劇場 studio21 入場無料(要事前予約)
パネリスト：岡真理(京都大学大学院准教授、高嶺格(美術作家※予定)、宇野邦一(立教大学教授、山田せつ子(ダンサー/コレオグラファー、本学教授)、八角聡仁(批評家、本学教授) 他

当センターの基幹プロジェクト、ジャン・ジュネの作品に基づくダンス公演『恋する虜』(〇八年三月七日〜九日上演)の関連企画として、パレスチナ問題と芸術表現の現在をめぐるとシンポジウムを開催します。

晩年のジュネをパレスチナへ駆り立てたものは何だったのか、パレスチナ人の傍らで過ごした時間はジュネに何をもたらし、パレスチナとの関係の何が「恋する虜」を書かせたのか、そしてそれを今私たちはどう受け止めることができるのか。ジュネの遺著『恋する虜』を読み解き、ダンス作品を創りあげていくために不可欠な考察として、パレスチナ問題の歴史と現在、そして現代における政治と芸術の関係、さまざまな角度から問いなおします。

●関連上映「ルート181」パレスチナ・イスラエルの旅の断章」同日9時30分(詳細はお問い合わせください)

4月の公演から……

京都造形芸術大学主催 京都芸術劇場 毛利臣男芸術監督プログラム

猿之助の世界第三章 — 市川猿之助とオペラ —

日時：07年5月19日(土) 15時開演
会場：京都芸術劇場 春秋座



撮影：小原雅弘

05年度より始まった、京都芸術劇場初代芸術監督 市川猿之助の表現世界を紹介する『猿之助の世界』。大好評のうちに迎える第3回目は「市川猿之助とオペラ」をテーマに、猿之助がオペラと出会い、革新的な作品を発表していたことに注目したトークショーを開催しました。

ゲストに山口県立大学教授の水谷由美子教授を迎え、「歌舞伎とファクション」のお話、猿之助の演出の「ル・コックドール(金鶏)」、「影のない女」の映像解説、猿之助の衣装デザイン「影のない女」の映像解説、猿之助の衣装を様々な角度から見られる様に盆(廻り舞台)を使用したコスチュームインスタレーションを行いました。また、ミニコンサートとして、ソプラノ歌手の柱本めぐみさん、作曲家・伴奏ピアニストの松園洋二さんを迎え、「ル・コックドール(金鶏)」、「影のない女」よりアリア、「太陽のアリア」『父よ、あなたですか?』『私を強くするために』の演奏が行われました。

お客様の興味は大変高く、最後の質疑応答の時間では、活発な質問が出され、終演後も自由に見られるように衣装を舞台前面に展示され、遅く迄ご覧になる方もいらつしました。今回のショーを通じ、猿之助の美を追求する真摯な姿勢、斬新な演出を生み出す日本文化の偉大さ、奥深さを学べる大変貴重な時間でした。

(劇場企画運営室 大嶋英司)

京都造形芸術大学 舞台芸術研究センター主催
詩と音楽と映像によるパフォーマンス

『おとのねにおいてゆくとき』

公演日：07年5月19日(土)

会場：京都造形芸術大学青空館 A スタジオ

出演：吉増剛造(詩人、マリリア(ヴォーカリスト)、

ジャンII フランソワ・ボーヴロス(ギタリスト)

二〇〇四年に京都芸術劇場 studio21 で開催して好評を得た「座 constellation」に続いて、国際的に活躍するアーティスト三人による異色のパフォーマンスが行われました。「おとのねにおいてゆくとき」というタイトルが示すように、多ジャンルの衝突や浸透を通して世界の振動としての「音」、すなわち詩や歌や舞踊の根源へとアプローチしようとする試みです。

前半は現代詩の世界に未踏の領域を開きつづける詩人、吉増剛造によるユニークな短編映画(Gozo Cine) 五編が、作者自身の語りとともに上映されました。写真家としても知られる吉増が昨年から発表している作品で、関西では初めての公開です。映画が開示した空間や身振りや響きあうようにして始まった後半のライブ・パフォーマンスでは、ブラジル出身のヴォーカリストで吉増夫人のマリリア、独創的なスタイルと無類の技法を持つフランスの前衛ギタリスト、ジャンII フランソワ・

ボーヴロスが、吉増の詩の朗読や映像と即興的に絡み合い、満員の観客を圧倒する重奏的な時空間が展開。約2時間の公演の終了後も、会場に残って銅板に文字を打ち込む詩人の姿に見入っている観客が少なくありませんでした。



「おとのねにおいてゆくとき」(5月19日 A スタジオ)
撮影：中山佐代

京都造形芸術大学 舞台芸術研究センター主催
シンポジウム&上映会
演劇と映像のインターフェイス

《ブリッジ・プロジェクト》その後

日時：10月13日(土) 14時(18時終了予定)
会場：本学入館B1F 映像ホール 入場無料 要事前予約
パネリスト(予定)：内野儀(東京大学大学院教授)
川村毅(劇作家 演出家、本学教授)他

昨年十一月に京都で開催した「ブリッジ・プロジェクト」。アメリカを代表する前衛演劇作家のリチャード・フォアマンが、映像作家のソフィー・ハヴィランドと共同で世界各国で行っているこのプロジェクトは、ワークショップに参加したそれぞれの土地のアーティストや学生が、そこで撮影した素材を著作権フリーで使用し、各々独自の作品を創作することができることを最大の特徴としています。このシンポジウムでは、ワークショップの記録映像(新垣巨洋製作)の上映を通じてその活動報告を行いつつ、上記の趣旨に賛同して独自の作品製作を行っている羊屋白玉(指輪ホテル)と齋藤学(USJ)の試みなども踏まえながら、複製技術時代における舞台芸術と映像の関わりをめぐって、幅広い視点から考察していきます。

●関連上演

psy 『たった数グラムの微細な薄皮』9月16・17日
指輪ホテル 『EXCHANGE』10月13・14日
(詳細はお問い合わせください)

お申し込み：京都芸術劇場 チケットセンター
お問い合わせ：京都造形芸術大学 舞台芸術研究センター

京都造形芸術大学 舞台芸術研究センター主催
かみがたわごと
上方和事研究会連続企画

記録映画『平成の坂田藤十郎』上映会
上映日：07年5月20日(日) 会場：京都芸術劇場 春秋座
シンポジウム「元禄上方和事復元の道」
開催日：07年5月23日(水) 会場：京都芸術劇場 春秋座

京都造形芸術大学 舞台芸術研究センター協力公演
坂田藤十郎 襲名記念 近松座歌舞伎公演 No.18 「鏡獅子」 「廓文章」
公演日：07年5月23日(水) 24日(木) 会場：京都芸術劇場 春秋座

舞台芸術研究センター主任研究員田口章子(本学教授)を中心に立ち上げた上方和事研究会による公開シンポジウム「元禄上方和事復元の道」。これまでの研究成果をもとに、研究者と実技者の協同作業で、初代坂田藤十郎の幻の舞台を復元するというものでした。田口章子の司会で、学習院大学名誉教授諏訪春雄、歌舞伎俳優坂田藤十郎の研究員に加え、狂言師茂山忠三郎、上方舞の山村若らを迎えおこなわれました。

《狂言》《舞》《日常の身体》をキーワードに理論と実技の両方から失われた元禄上方和事の演技に迫った結果、初代坂田藤十郎の演技の実態を予想以上に把握でき、多くの収穫を得ることができました。春秋座という贅沢な実験装置をもつ京都造形芸術大学ならではの、実技と理論の両者が噛み合った研究会の成果を披露できたといえるでしょう。台本に選んだ近松門左衛門作『夕霧阿波鳴渡』を分析しながら、来年度の和事復元上演にむけて具体的な作業に入っていくことができます。

当日はシンポジウム終了後、春秋座で坂田藤十郎が主宰する近松座歌舞伎公演で『廓文章』が上演されました。シンポジウムともども参加いただくことで、元禄時代の和事とそれ以後の和事の演技を比較できたことも意義ある体験となりました。これに先立ち5月20日には春秋座で記録映画『平成の坂田藤十郎』大名跡に望む、熱き魂の記録』の上映会をおこないましたが、公開シンポジウム、近松座歌舞伎公演と、一連の「上方和事研究会」連続企画は「坂田藤十郎」をキーワードに、あらためて上方歌舞伎、京都文化を知ることができる意義深いものとなりました。

(京都造形芸術大学 舞台芸術研究センター主任研究員 田口章子)



撮影：清水俊洋



左より茂山忠三郎氏、山村若氏

京都造形芸術大学 舞台芸術研究センター主催
みやこで楽しむ落語
上方の茶屋噺と江戸の廓噺



桂春團治師匠 撮影：清水俊洋

公演日：07年6月2日(土)
会場：京都芸術劇場 春秋座
一極集中化という現代の日本文化の欠点を是正し、偏った日本文化を見直すために立ち上げた企画「みやこシリーズ」の第二弾、「みやこで楽しむ落語」である。ねらいは日本を代表する廓文化を育ててきた京都で、「廓」をテーマに、東西の噺家による江戸の廓噺と、上方の茶屋噺を比較上演という方法で楽しもうというもの。江戸は柳家喜多八「五人廻し」と古今亭志ん橋「幾代餅」、上方は笑福亭松喬「三枚起請」と桂春團治「親子茶屋」という豪華な顔ぶれと演目で、話芸の神髄を味わうことができる公演となった。
二階席までいっぱいのお会場には学生の姿も多々みられ、落語人気が高さをうかがい知ることができ。江戸には江戸の、上方には上方の風土のなかで生まれた育った落語が存在すること。地域によって多様な個性を生み出し、江戸と上方に集約されるそれらの地域が互いに交流し、刺激しあいながら日本の文化がつくられてきたことを、再認識できたのではないだろうか。

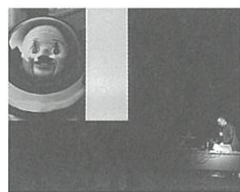
(京都造形芸術大学 舞台芸術研究センター主任研究員 田口章子)

情Dサプライズ!!2007

第1回情報デザイン・プレゼン大会

開催日：07年5月9日(水)
会場：京都芸術劇場 春秋座

今年度より新しく5コー
ス編成となった情報デザ
イン学科として、初めて



の試みとなる学科集会を企画しました。入学前には大学案内やオープンキャンパスなどを通じて、学科・コースの教育構想などについて知る機会があるのに対し、入学後はなかなかそうした機会がなく、大所帯の学科として、もっと教員・学生がそれぞれ授業以外にも交流の場をもうけることによって、風通しの良い雰囲気をつくる事を目的としています。

当日は教員や学生がそれぞれ研究や趣味、特技などについて自由なプレゼンテーションを行ないました。二時間半という長丁場ではありましたが、ユーモアのあるプレゼンに笑いがおきるなど終始和やかな雰囲気で行うことが出来、参加した教員・学生からはそれぞれの普段知る事のない一面や、カリキュラムの成り立ちなどについて理解が深まり、興味深かったなどと好評でした。今後については学科企画として、年に数度開催していきたいと考えています。

(京都造形芸術大学 情報デザイン学科 事務担当 栗田麻子)

デジタル・ライティング・シンポジウム
シナジー・オブ・ライティング

『京都の奇跡』

公演日：07年6月1日(金)
会場：京都芸術劇場 春秋座

6月1日(金)に開催した「デジタルライティングシンポジウム」には、約500名の学生・企業が参加。パネルディスカッションでは、本学空間演出学科長の椿昇氏が、コーディネーターを務め、米 High End Systems 社・日本トラクソントテクノロジ社などから出演されたパネリストの方々とデジタルライティングの現状、プロジェクトとLEDでのビジュアル表現をメインとした光の未来についての意見が交わされました。また、本学学生プロジェクトメンバーが、米 High End Systems 社・デジタルライティング製品 (DL2, Axon Server) を使用しての映像と身体表現によるパフォーマンスを披露。最後には世界初お披露目となる米 High End Systems 社の新製品で、業界初の長距離照射用のムービングライト「ShowGun」も登場しました。終了後、来場者・業界関係者から、本学学生作品に対し高評価を頂き、産学連携にてのコンテ



学生によるパフォーマンス

ソンの共同開発の提案まで頂きました。

(京都造形芸術大学 プロジェクトセンター 浅壁之博)

ATG Film Exhibition No.2

日時：07年6月14日(木)～6月17日(日)

会場：京都芸術劇場 春秋座

上映作品：6月14日(木)実相寺昭雄監督「無常」18開演

6月15日(金)大島渚監督「儀式」18時開演

6月16日(土)黒木和夫監督「竜馬暗殺」14時開演

6月17日(日)高林陽一監督「金閣寺」14時開演

モデレーター：毛利臣男(京都芸術劇場 芸術監督)

榎本了彦(京都造形芸術大学 教授 情報デザイン科 科長クリエティブディレクター)

トークショー出演者：6月14日(木)林海真(京都造形芸術大学 教授 映画学 科学科 科長 映画監督)

6月15日(金)佐藤真(京都造形芸術大学 教授 ドキュメンタリー映画監督)

6月16日(土)高橋伴明(京都造形芸術大学 映画学 科 教授・映画監督)

6月17日(日)葛井欣士郎(映画演劇プロデューサー)

※同時開催「ATGポスター 葛井欣士郎コレクション」展

6月13日(水)～17日(日)10時～18時 京都芸術劇場 ホワイエ

京都芸術劇場 毛利臣男芸術監督プログラム、「ATG Film Exhibition No.2」が6月14日～17日に春秋座で行われました。昨年に引き続き2回目の開催となった今回は「京都」をテーマに、挫折を経て内省へと向かう70年代に、京都を背景に創られた4作品が上映されました。また、上映後には、榎本了彦教授と、本年度新設された映画学科の林海象教授・佐藤真教授・高橋伴明教授とのアフタートークショーが行われ、最終日にはATGの伝説的プロデューサー葛井欣士郎氏がトークショーに特別出演されました。

歌舞伎様式の春秋座の舞台に巨大なスクリーンが設置され、昔ながらの35mmスタンダード(「儀式」のみワイド)の映像周りには赤提灯が並ぶという、他では味わえない上映会でした。アフタートークショーでは、最終日に葛井欣士郎氏ご本人から「金閣寺」原作者の三島由紀夫氏との交友を、この場でしか聞けない大変貴重な話が拝聴できました。

ホワイエでは本大学で製作され、他では求められない「ATG 封切全作品カタログ」が販売され、終演後には出演者のサイン会に列が出来ました。また4日間通して観られた方もたくさんおられ、出演者との話が弾んでいました。

(劇場企画運営室 大嶋英司)



トークショーの様子
左：毛利臣男氏、中央：葛井欣士郎氏、右：榎本了彦氏



ATGポスター 葛井欣士郎コレクション
No.2展の風景

サイン会の様子

第32回 組織細胞化学講習会

主催：日本組織細胞化学会

開催日：07年8月7日(火)～8日(水)

会場：京都芸術劇場 春秋座

お問い合わせ：京都府立医科大学 解剖学・生体構造科学

(TEL) 075-251-5301

ライフサイエンスのあらゆる研究に必要となつている、組織細胞化学の手法について、各分野の第一線で活躍する先生方を講師に迎え、原理からすぐに応用可能な最新技術までを講演頂く講習会です。生物のなかに機能する物質を顕微鏡を通して見ると、そこには細胞を舞台上に生命を営む美しい世界があります。

(京都府立医科大学 河田光博・松田賢二)

第35回 全日本きもの着付選手権大会

日時：07年7月15日(日)

開演時間：10時30分～15時30分

会場：京都芸術劇場 春秋座

入場料：無料 ※入場整理券が必要

お問い合わせ：日本和装学園

(TEL) 06-6337-3071 (代)

日本伝統文化「きもの着付」の技術向上のため、学園生徒による地区大会を勝ち抜いた代表選手が競い、日本一を決定。学園の友好親善国、タイ・アメリカより代表がご臨席。時代衣装シヨも披露。

(日本和装学園 藤玉)



第34回全日本きもの着付選手権大会(平成18年)より

京都造形芸術大学2007年度公開連続講座

『日本芸能史』後期(全13回)ののご案内

前期は「上方と周辺の芸能」をテーマに、上方ならではの芸能を紹介し、ご好評いただきました。後期は「江戸と周辺の芸能」をキーワードに、歌舞伎、長唄、常磐津、清元、講談など毎週異なるジャンルの実演家を招き、その歴史や内容を解説いたします。どなたでも受講いただけますので、お気軽にお尋ねください。

期間：07年10月1日～08年1月28日

毎月曜日午後4時10分～5時30分

場所：京都芸術劇場 春秋座

受講料：一万円

お問い合わせ：資料請求先：京都造形芸術大学 教学事務室 瓜生山エクステンションセンター

電話 075-791-9124 / FAX 075-791-9127

受付 平日/午前9時～午後5時(土曜/午後4時まで)

第二期刊行開始！『舞台芸術』11号のおしらせ

舞台芸術研究センターの機関誌『舞台芸術』では第二期も引き続き、批評的な視点を通じて舞台表現の想像力の射程を拡張し、新たな作品創造の可能性を問いかけます。11号では、これまで謎に包まれてきたS・ベケット、J・ジュネの後期作品を新たな視点で解説するほか、R・フォアマンの最新プロジェクトの全貌、松田正隆の戯曲『アウトダフェ』（オリジナル・ヴァージョン）を掲載。鶴飼哲、宇野邦一、吉増剛造、保坂和志、太田省吾、山田せつ子、内野儀、八角聡仁などジャンルを横断した強力な論客を執筆者に迎えています。

(企画・編集) 京都造形芸術大学 舞台芸術研究センター 発行 角川学芸出版 発売 角川グループパブリッシング 定価 2,100円 全国大型書店にて発売中

お問い合わせ：購入申込み先：京都造形芸術大学 舞台芸術研究センター
tel:075-791-9437 e-mail:info@k-pac.org

《瓜生山草》

芸術は模倣から始まると言われる。模倣で収まらないものがオリジナルになる。ところが人間の発想は同じものが多く、独自の創造が、昔のものと似たりする。歴史の勉強は重複を避けるための一つであるが、そこに本歌取りやパロディ作品が生まれてくる。日本には伝統的『本家』『元祖』がある。パロディと言うと似せもの、1ランク下のイメージだが、古来の本歌取りの考えからすると、本歌を知っている教養と、それをよりよいものにする遊び心が必要になる。単なるおふざけやカラカイであればパロディにはならないだろう。

今回ニュースレターのスタイルが変わった。メリットもデメリットもあるが、本歌取りの精神に新しいものを生み出す遊び心を忘れずにいたい。そこには広き教養が必要で、それがまた難しい正しいを知るだけじゃなく間違いが分る知識もいる。失敗をしながら覚えていくしかないのかな。失敗は成功の母。(岩田)

京都芸術劇場
ニュースレター
Vol.5
2007.7.

発行：京都芸術劇場
発行人：毛利臣男 八角聡仁
編集人：岩田廣明
デザイナー：清水俊洋
発行日：二〇〇七年七月一日

月	日	曜日	開演時間	催し物	内容	会場	問合せ先	チケット販売
7月	2	月	16:10	2007年度公開連続講座 日本芸能史	2007年度は、前期〈上方と周辺の芸能〉後期〈江戸と周辺の芸能〉をキーワードに、日本伝統芸能の第一線で活躍している専門家に、実演をまじえながら解説していただく公開講座です。 コーディネーター：田口章子 【前期】第12回「狂言」実演/茂山忠三郎、茂山良暢	春	京都造形芸術大学 瓜生山エクステンションセンター TEL 075-791-9124 (平日9時~17時/土曜9時~16時)	常時受付 公開授業 各期10,000円 ※申込は問合せ先へ
	9	月	16:10	2007年度公開連続講座 日本芸能史	コーディネーター：田口章子 【前期】第13回「琵琶」実演/上原まり			
	15	日	10:30	第35回 全日本きもの着付選手権大会	日本伝統文化“きもの着付”の技術向上のため、日本和装学園生徒による地区大会を勝ち抜いた代表選手が競い、日本一を決定。学園の友好親善国、タイ・アメリカより代表がご臨席。時代衣装ショーも披露。			
	28	土	14:00	第6回 響きeyeコンサート	今年で第6回目となる。京都造形芸術大学和太鼓研究センター登録会員及びチームの、和太鼓教室修了発表会	春	京都造形芸術大学 和太鼓研究センター 075-791-9145(平日10時~18時) 京都芸術劇場ナカトセンター TEL 075-791-8240	【発売中】800円
8月	4	土	13:00	京都造形芸術大学 映画祭 第1回：高橋伴明映画祭 ～映画と喧嘩する監督と女優～	上映作品：「TATTOO(刺青)あり」、「光の雨」 ゲスト：高橋伴明(映画監督)、高橋恵子(映画女優)	春	京都造形芸術大学 映画学科 075-791-9353 京都芸術劇場ナカトセンター TEL 075-791-8240	【発売中】 通し券5,000円(全6回+映像ホールでの特別企画上映1回) 1回券 一般1,500円 学生・シニア1,000円
	7	火	9:00	第32回 組織細胞化学講習会	組織細胞化学の基本から先端技術までに関する講習会。3日間のうち1、2日目の講習会(学術講演会)は、京都芸術劇場春秋座にて、3日目の技術講習会は京都府立医科大学を会場として医学、薬学、歯学、理学、農学をはじめ広くバイオ関係の研究者、技術者にむけ、開催される。	春	京都府立医科大学 解剖学・生体構造科学 TEL 075-251-5301	受講料20,000円(学会会員)、30,000円(非会員) 申込は問い合わせ先へ
8	水	9:30						
9月	30	日	13:00	京都造形芸術大学 映画祭 第2回：郭在容映画祭 ～韓国映画の未来と展望～	上映作品：「猟奇な彼女」、「ラブストーリー」 ゲスト：郭在容(映画監督)、林海象(映画監督)、寺脇研(映画評論家)	春	京都造形芸術大学 映画学科 075-791-9353 京都芸術劇場ナカトセンター TEL 075-791-8240	【発売中】 通し券5,000円(全6回+映像ホールでの特別企画上映1回) 1回券 一般1,500円 学生・シニア1,000円
10月	1	月	16:10	2007年度公開連続講座 日本芸能史	コーディネーター：田口章子 【後期】第1回「江戸と周辺の芸能 総論」 諏訪春雄	春	京都造形芸術大学 瓜生山エクステンションセンター TEL 075-791-9124 (平日9時~17時/土曜9時~16時)	常時受付 公開授業 各期10,000円 ※申込は問合せ先へ
	8	月祝	15:30	京都造形芸術大学 舞台芸術研究センター主催 ダンス・プロジェクト「恋する虜」関連シンポジウム 「間」としての「パレスチナ」 ージャン・ジュネ「恋する虜」から	パネリスト・岡真理(京都大学大学院准教授、現代アラブ文学・第三世界フェミニズム思想) 高嶺格(美術作家) ※予定 宇野邦一(立教大学教授、フランス文学・フランス思想) 山田せつ子(ダンサー/コレオグラファー、京都造形芸術大学教授) 八角聡仁(批評家、京都造形芸術大学教授) 他	S	京都造形芸術大学 舞台芸術研究センター TEL 075-791-9437 京都芸術劇場ナカトセンター TEL 075-791-8240	入場無料(要事前申込)
	15	月	16:10	2007年度公開連続講座 日本芸能史	コーディネーター：田口章子 【後期】第2回「日本舞踊」実演/坂東温子	春		※10月1日の欄をご参照下さい
	20	土	16:00	モーリ・マスク・ダンス Part13 去来II	春秋座の舞台を使用する仮面舞踏劇。出演者は本学空間デザイン学生及び全学プロジェクト学生。	春	京都造形芸術大学 劇場企画運営室 075-791-9207 京都芸術劇場ナカトセンター TEL 075-791-8240	【7月下旬発売予定】 500円
	22	月	16:10	2007年度公開連続講座 日本芸能史	コーディネーター：田口章子 【後期】第3回「歌舞伎舞踊の大道具」理論/中田節	春		※10月1日の欄をご参照下さい
	28	日	13:00	京都造形芸術大学 映画祭 第3回：木村威夫映画祭 ～美術監督作品200本を越えて～	上映作品：「海と毒薬」、「ツィゴイネルワイゼン」 ゲスト：木村威夫(美術監督)、林海象(映画監督)	春	京都造形芸術大学 映画学科 075-791-9353 京都芸術劇場ナカトセンター TEL 075-791-8240	【発売中】 通し券5,000円(全6回+映像ホールでの特別企画上映1回) 1回券 一般1,500円 学生・シニア1,000円
	29	月	16:10	2007年度公開連続講座 日本芸能史	コーディネーター：田口章子 【後期】第4回「説経浄瑠璃」実演/若松若太夫	春		※10月1日の欄をご参照下さい

2007年7月~10月 京都芸術劇場スケジュール

凡例 — 春 春秋座公演 S studio21公演 指 指定席 自 自由席 E 電子チケットぴあ取扱 <http://t.pia.co.jp/> U 未就学児の入場も可
*特に表記のない場合、前売と当日は同じ料金 *ユースとは、学生または25歳以下対象 *シニアとは、60歳以上対象

チケットお問合せ先
京都芸術劇場チケットセンター ... TEL:075-791-8240 (営業：平日10:00~17:00/公演開催日)
 E-mail: ticket@kuad.kyoto-art.ac.jp

京都造形芸術大学
 京都芸術劇場
 Shunjuza / Studio 21

〒606-8271 京都市左京区北白川瓜生山2-116
 tel 075-791-9207 fax 075-791-9438
 URL <http://www.k-pac.org/>

